

令和7年度 県立取手第一高等学校自己評価表

目指す学校像		令和7年度 県立取手第一高等学校自己評価表				
<p>・本校の校訓(至誠・醇厚・自強)の精神を礎に、取一精神「力耕不吾欺」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化に敏感に対応し、国際社会・高度情報化社会に適応できる能力の育成に努める。</p> <p>・総合学科の特色を活かしたキャリア教育の充実と主体的な学びの実践による多様な進路希望の実現を目指し、人間性豊かで活力のある人間育成に努める。</p>						
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	<p>① 本校の校訓(至誠・醇厚・自強)の精神を礎に、取手一高精神「力耕不吾欺(りきこうわれをあざむかず)」を実践できる人材</p> <p>② 主体的に学び、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる人材</p> <p>③ 豊かな人間性を持ち、主体的に社会に貢献できる人材</p>				
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	<p>① 総合学科の特色を生かし、「産業社会と人間」の授業を核とした横断的・総合的な学習及び地域と連携した学習の実施によるキャリア教育の充実</p> <p>② 充実した情報教育と国際理解教育による、グローバル社会に対応できる人材の育成</p> <p>③ 生徒の多様な進路希望に対応した教育課程による、就職から大学進学までの幅広い進路希望の実現</p>				
	「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	<p>① 主体的に学び、自分の進路実現を目指し、地道に努力できる生徒</p> <p>② 自らのスキルアップを目指し、多様な資格取得に向けて努力できる生徒</p> <p>③ 豊かな人間性を持ち積極的に奉仕活動に取り組める生徒</p> <p>④ 自己理解に努め、総合学科のそれぞれの分野に興味を持ち、深く探究しようとする意欲のある生徒</p>				
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
<p>・総合学科としての特色である「産業社会と人間」の授業を核とし、キャリア教育を踏まえた総合的な学習指導体制は確立している。それを踏まえて各教科及び「総合的な探究の時間」において探究的な学びを推進し、生徒自ら課題を見つけ、学び考える力を育てる取り組みを充実させる。</p> <p>・生徒の選択分野に応じた各種の資格検定において、より上位の級に挑戦し、取得できるよう指導の充実を図るとともに、生徒の進路実現に活かしていけるかが課題である。</p> <p>・思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業の展開力と、各種検定や共通テストに対応できる指導力を磨く教員研修の充実が必要がある。</p> <p>・3年間を見据えて、段階的・継続的な進路指導体制を一層強化し、生徒が希望する多様な進路選択に対応する必要がある。</p>		1 主体的な学習習慣の確立	①総合的な探究の時間や各教科における探究的内容を通して、生徒自ら課題を発見・設定し、課題の解決に必要な知識及び技能を身につけさせる。自ら学習を計画し取り組めるように支援する。		B	
		2 進路希望の実現と総合学科の特徴を生かした進路指導体制の確立	②総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とし、3年間を見通した段階的な進路指導体制の構築と、進路実現のための個別面談を適時適切に実施する。 ③推薦入試や総合型選抜を見据えた早期からの小論文・面接指導に加え、課外や模擬試験を活用し、一般入試にも耐えうる基礎学力の向上を図る。		A	
		3 豊かな心を育む教育推進	④基本的な生活習慣の確立を目指しつつ、様々な教育活動の中で人権を意識させ、生徒自ら他者や社会問題について考える機会を創出する。 ⑤様々な状況に適応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。 ⑥生徒の実態(不登校・特別支援・不応等)に応じた支援についてチームで考え、年次、生徒指導部、教育相談部及び外部機関等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。		A	
<p>・服装頭髪指導及び遅刻指導等の組織的かつ継続的な指導により、多くの生徒が、基本的な生活習慣や規範意識を身に付けている。今後も継続して指導に当たる。また、心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加傾向にある。チームとして教育相談体制を充実させ、生徒の諸問題の未然防止・早期発見・早期対応に努めていく。</p> <p>・学校行事について、生徒会を中心に企画運営する生徒たちが、集団の中での存在感、達成感が得られている。また、地域におけるボランティア活動に参加する生徒も多い。各部活動も活発であり、上位大会に出場する部活動も多い。生徒がそれぞれの集団で自ら課題を見つけ、問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促していく。</p> <p>・教員間のコミュニケーションの活発化、業務におけるICTの活用により、業務の分担や軽減が図られ、効果的に業務をこなそうとする機運が高まっている。会議、委員会等を精選する中で、職員間で確実な情報共有と業務分担の平準化が課題である。</p>		4 メタ認知能力の育成及び生徒の主体的活動の充実	⑦自身の活動を振り返り、自身の変容や成長を客観的に自己評価できるようにする ⑧生徒自らが課題を見つけ、問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。 ⑨部活動や学校行事も含めたすべての活動において、生徒の主体的な参加を促し、学校生活の活性化を図る。		A	
		5 働き方改革の推進	⑩ICT機器を活用し、効率的に職務を遂行することによって、教職員が事務的な仕事量を減らし、生徒とかかわる時間や自己研鑽の時間を増やす。 ⑪教材の共有化・ライブラリー化を進める。 ⑫部活動においては、短時間で効率的な練習計画を立て、実践する。		B	
		6 評価手法の研究と授業改善を通じた確かな学力の育成	⑬授業改善推進プロジェクトを通して、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。 ⑭ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとってわかりやすい授業の展開を実践する。 ⑮観点別評価方法については、不断に見直し、評価を今後の授業改善やより効果的な指導法に活かせるようにする。 ⑯生徒による授業評価における授業満足度の平均値3.3以上となるように務める。		B	
評価項目	具体的目標	具体的方策		関連項目	評価	次年度(学期)への 主な課題
教科指導 (全体)	<p>・ICT機器の活用を活発化し、わかりやすく、生徒が楽しく参加できる授業を展開する。</p> <p>・生徒の学習習慣を確立し、基礎力と応用力の伸長を図る。</p> <p>・自らの学力を把握し、問題意識を持ち、課題の発見・設定と多様な方法で解決できる能力を養う。</p>	総合学科として各分野の目標に沿った授業計画を立案し、その目標を達成できるように授業実施に努める。	①③⑬	B	<p>・電子黒板やひとり一台端末等を更に効果的に活用した授業展開。</p> <p>・授業における生成AI等の効果的な活用場面・方法の検討と実践。</p> <p>・自主的な学びではなく、主体的な学びに結びつけるために、生徒の学習意欲を基礎から発展へどのように向上させるか。</p> <p>・教科横断的な学びと探究的な深い学びは授業改善プロジェクトを中心に継続する。</p> <p>・教育課程も含めた学びの方向性の検討。</p>	
		電子黒板・タブレット端末等を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学べるよう授業改善に努める。	⑨⑩⑬	A		
		生徒を様々な角度から評価し、生徒自身も自らの学びを振り返られるような学習評価を実施し、授業の改善につなげる。	⑦⑮	A		
		総合学科の特色を活かし、自己のキャリア形成を考慮した選択科目の履修ができるよう、生徒の支援を行う。	②⑧	B		
		面談や観察を通して生徒一人一人を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。	①②	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	分野の目標に沿った授業計画を立案し、ICT機器や副教材等を積極的に活用して国語に関する基礎知識と応用力を身につける。	①③	A	【課題】 ・ICTを活用した授業実践を行いたい。 ・生徒が主体的に学習に取り組む授業づくりを実践したい。 ・生徒に本に触れる習慣を身に付けてもらいたい。 【取組の方向性】 ・教員間で、ICTを使った授業実践の検討会を実施する。 ・教員間の授業改善に向けて、相互授業参観を実施する ・自分の意見を述べる力を育成するため、授業において討論する機会を多く設ける。 ・図書館を活用した授業を取り入れる	
		基礎学力の向上を図るとともに、国語への興味・関心を高める。	資格検定(漢字検定)の受験者数を増やし、合格者数を昨年度比10%増を目指す。	①		A
			進路決定に備え、早い段階からの小論文指導を実施しつつ、一般入試にも対応できる学力を身に付けることができるよう、進学課外を実施する。	③		B
		生徒個々の進路希望に応じた指導を展開する。	生徒の状況や性格を把握し、個々の能力の伸長に努める。	①②		B
			生徒の状況に沿った課外授業を実施する。	①⑦		A
			図書館の利用推進を行うとともに、書物や新聞等の日常的利用を促す。	①		B
			生徒による授業評価における授業満足度の向上を目指す。	⑬		A
			授業観察を積極的にを行い、教員間の意見交換を行うとともに、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。	⑮		B
			ユニバーサルデザインの視点に立った全ての生徒にとってわかりやすい授業の展開を実践する。	⑭		A
	地歴公民	基礎学力を定着させ、その知識を活用して自らの考えを表現する歴史的・地理的思考力、公民的資質を養う。	タブレット・電子黒板を活用し、グラフや視聴覚資料等を提示することにより、課題探究型の授業を実施する。	①	A	日々の授業において、ICTの活用や、多角的な授業展開ができた。次年度に向けて、共通テストや模擬試験の意義を再確認し、そこに向けた授業展開を模索する。教科の特性上、単年では完結できない科目がほとんどであるため、より一層の計画性が必要である。
			国内及び現代の国際的な諸問題について授業内容に盛り込み、歴史的・地理的な因果関係を考えさせる。	③	A	
		共通テスト・私立大学の入試、一般教養問題等に対応できる授業を展開する。	それぞれの出題傾向を把握し、それに対応した課外の実施・定期考査の問題の精選を行う。	①	B	
			模擬試験を通し、多様な問題に対処する力をつけるとともに、事前・事後指導を徹底し、その力を定着させる。	①③	B	
	数学	基礎学力の定着及び数学的思考力の涵養	基礎学力の定着のため、基礎問題の反復練習やグループワークによる言語活動を行う。	①②⑦⑧	A	【課題】 ・基礎学力の定着を図り、自主的な取り組みを促していく。 【取組の方向性】 ・質問しやすい環境作り、課外などを活用し個別指導の充実を図る。
			生徒の理解度や進路希望に合わせた授業展開を継続し、個々に応じた指導を通して確かな学力を育む。	①②③	A	
			質問しやすい環境作りを行うと共に、生徒一人ひとりの学力の伸長に努め、補習や課外を実施するなど学力に応じた個別指導を実施する。	①②⑮	A	
		家庭学習習慣の定着	数学に対する興味・関心を高められるような授業を展開し、各々の進路を授業の中でも意識させていくことで自ら学ぶ意欲を持てるように働きかける。	①②⑦⑧	A	
			毎週末や長期休業中に課題を与え、予習復習の習慣を身に付けさせる。	①②⑧	B	
		模擬試験・一般入試に対応した指導	教育課程や受験指導の在り方を吟味し、3年間を見通した指導のシステムを検討していく。	①②③⑬⑮	A	
		模擬試験や共通テストレベルの問題を積極的に取り入れ、授業・定期テストと模擬試験・入試問題とのギャップを埋められるようにする。	①②③⑬⑮	B		
	理科	科学的な事物・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等により科学的興味関心を育成する。	①③	A	・実験、実習の機会を引き続き確保する ・問題演習により、基礎的な知識や技術の定着をはかる。 ・生徒の思考力、判断力、表現力を高められるような探究の機会を確保する。 ・教員同士の情報共有等を積極的にを行い、授業の改善を図る。
			身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	①③	A	
			観察が困難なもの等については、ICTを利用してCGや映像資料を活用する。	⑩⑪	A	
		科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的に行い、結果の考察の方法について指導する。	③⑬	A	
基礎・基本を徹底し、探究するための基礎的な能力をはぐくむ。			①③	A		
授業中の発問を工夫し、思考力を高める。			①	A		
大学入試レベルの学力を身につけさせる。		思考力・判断力・表現力を問う内容を取り扱い、共通テストに対応する力を身に着つけさせる。	①⑧⑬	B		
		入試問題の研究を行い、出題傾向に関する情報を蓄積し、学習効果の向上に努める。	③⑪	B		
		教員相互の情報共有を行い、授業の改善を図り、生徒の学力向上につなげる。	⑪⑬⑮	B		
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題		
教科	保健 体育	健康に対する正しい知識を身につける。 健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身につける。	①②	A	【課題】 ICTの効果的な活用。授業の中で取り入れていくこと。 【取組の方向性】 ・保健に関しては、現代の保健課題を積極的に取り入れ、授業とリンクさせながら問題解決能力を高くみたい。 ・体育に関しては、ICTを積極的に取り入れ、スポーツに対する様々な関わり方を提示していきたい。	
			グループ学習を通して価値観を広げる。	①②	B		
			自己実現に向けて、ライフ・スキルの向上を図る。	①⑦	B		
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	①	B		
			体づくり・体ほぐしを授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	①	B		
			測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	①	A		
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気 で活動するとともに、集団行動のマナー を身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声での挨拶の励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	①⑦	A		
			声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養い、協調性の向上を図る。	①⑦	A		
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し、生徒の自主性・主体性を育てる指導をする。	①⑦	A		
			施設・用具を大切に扱う態度を身に付けさせる。	①⑦	A		
	音楽	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの動きを感じて、演奏・表現活動を行う。	さまざまな形態や時代の音楽に関心を持ち、主体的に表現活動をする。	①⑧	A		【課題】 デジタル教材やオンライン資料等を活用した授業改善に取り組み、生徒の理解や学習意欲の向上につなげていきたい。 【取組の方向性】 タブレット端末の授業での活用を更に推進させる。
			リズム、旋律や強弱などの形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す音楽的效果を感じ、表現の工夫ができるようにする。	①	A		
		音楽の幅広い活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる。	アンサンブル活動の中で、互いに協力し合い音楽を作り上げる喜びを味わう。	①	A		
			世界の諸民族や日本の伝統音楽に対する理解を深め、自分なりの観点をもって音楽のよさや美しさを味わう。	①	A		
	美術	作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	①	A		【課題】 インターネット環境が整ったことを生かし、今後はデジタル教材やオンライン資料等を活用した授業改善に取り組みたい。 【取組の方向性】 液晶テレビ・タブレット端末を活用した鑑賞の授業を充実・推進させる。
作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。			①	A			
自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。			①⑧	A			
英語	自発的、継続的学習を目指す。	授業重視の学習指導に加え、予習、復習、週末課題、小テスト等をおとして自ら学ぶ姿勢を養い、継続的な家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	①⑬	A	・コースに応じた授業展開の実施、家庭学習の習慣化、基礎学力の定着を引き続き目指す。 ・英検や一般入試対策の実施 ・ICTを活用した組織的・継続的な指導法の研究、確立と共通理解		
	基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る。	ICTを用いて授業内容を工夫・改善し、生徒がわかりやすいと実感できる授業を行う。毎時間、生徒が学習内容を振り返り、深く理解する機会を設ける。	⑬⑭⑮	B			
	大学進学可能な学力向上を図る。	継続的な課外指導等を含めて3年間を見据えた計画的な指導を組み立て、大学一般入試及び学校推薦型、総合型選抜入試に対応した指導を行う。	②③	A			
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分						

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度（学期）への主な課題			
教科	家庭	生徒の興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	①⑬	A	【課題】 調理技術等の基礎的・基本的な生活技術の習得は、授業だけでは難しい。 【取組の方向性】 生活技術の習得について、継続的に生徒が自ら取り組めるように、授業と実生活をリンクさせられるような授業づくりが必要。探究活動とリンクさせて、生活課題解決にむけ、取り組めるよう授業でも支援したい。			
		意欲を喚起する学習指導を実践する。	⑧⑬	A				
		ICT機器を効果的に活用した授業を展開する。	⑪	A				
		科学的な理解と技術の習得を図る。	①⑬	A				
		基礎的・基本的な生活技術を習得できるようにする。	⑭	B				
		生活の場における課題を解決する実践力を育成する。	①⑬	B				
	工業	単体制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現するとともに、生徒の適正人数の確保に努める。 1・2年次の授業で、「情報数理基礎」「工業技術基礎」の内容を補い、基礎力の向上及びものづくり教育を推進する。	②⑤ ①②	B A	【課題】 適正人数になるように心がける。たくさんの資格取得や検定に合格させ、ジュニアマイスターの称号を得る。パソコンやタブレット端末を使いこなせるようにする。AIやロボット関連の授業実習を考える。 【取組の方向性】 今より多くの資格、検定試験に挑戦させる。機械関係、情報関係の授業実習の充実やAI関連、ロボット関係の実習を増やす。魅力ある工業科を目指したい。		
		各種資格・検定指導を充実させ、ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格「工事担任者」については授業において積極的な指導を行うとともに課外授業を行う。資格取得率80%以上を目標とする。また、その他の資格・検定においても適宜課外指導を行い、ジュニアマイスターの育成に努める。	②⑤	A			
		時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やAI・IoT、ロボット・制御技術、及びCAD・CAMなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。 レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取り入れ、今日の技術者として必要な表現力を育てる。 教員の専門性（校外研修等）の向上を図る。	②⑤ ①②⑤ ①②	B A A			
		生徒の多様な進路志望に応えるとともに、「ものづくりはひとつづくり」の観点から社会で活躍する技術者の育成に努める。	総合学科の特性を生かし、大学、専門学校、就職のいずれも視野に入れた指導を行い、生徒の希望進路実現を図る。 将来、社会で活躍できる技術者の育成を念頭に、学力、技能ならびに安全や技術者としての倫理等について継続的な指導を行う。	②⑤ ①②⑤⑦	A A			
		商業	ビジネス分野に興味・関心を持たせ、主体的に学習に取り組む態度を育てる。	わかりやすい授業の展開により商業科目に興味を持たせ、自ら学ぶ姿勢を育て確かな知識を身に付けさせる。 ICT機器を利用した授業の構築や授業研究を通して、授業改善を行い、主体的・対話的な深い学びの実現に向けた指導力向上に努める。	①② ①⑬		A A	【課題】 日商簿記については課外を実施し、合格者も出せたが、ITパスポートについては計画的にできなかった。 【取組の方向性】 ITパスポート試験の教材研究を深め、次年度はより計画的に受験について検討していく。
			ビジネスにおける実践力の育成を図る。	社会的責任を担う職業人として必要なビジネスマナー及びコミュニケーション能力を育成する。	④		B	
	資格指導を充実させ、進路選択の幅を広げる。		自ら目標を掲げ、主体的に取り組む成長できるよう指導を行う。 日商簿記検定2級、ITパスポート等の上級資格取得を目標とした課外指導を行う。 資格取得を通して実践的な学力を養い、希望進路を実現する。	① ①② ②	A B A			
	情報		情報社会に興味や関心をもたせ、自ら学び自ら考える姿勢を育てる。	文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い、情報活用能力の向上を育成したうえで、自ら設定した課題を解決するような題材を扱い、問題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。 1年次はオンラインコンテンツや外部教材等を活用し、大学入試を視野に入れた授業を実施して知識の定着や学習意欲の向上を図る。3年次にて課外授業を実施し、実践的な問題演習等を通して大学入試に対応できる力を育成する。	⑦⑧ ①⑭	B B	【課題】 自ら設定した課題解決の題材があまり実現できなかった。3年次の課外は実施できなかった。 【取組の方向性】 学習指導要領の内容を踏まえつつ、社会で求められる情報の学力を具体的に学べるように、他校の取り組みなども参考に本校の生徒の実態に合わせて計画・実践する。	
			効果的にコミュニケーションを行う能力を伸ばし、積極的に情報社会に参加する態度を育てる。	情報社会の影の部分を理解させ、社会における情報モラルの問題や社会問題について考えさせたいうえで、グループワークなどを通して他者と協力して問題解決するための態度を育てる。	⑬⑮	B		

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度(学期)への 主な課題
教務	総合学科の特色を活かし、多様な進路希望に対応するための教育課程の編成と運用を行う。	単体制総合学科としての利点を生かし、将来の社会情勢に対応できる能力を身に付けられるような体制を整備する。 「教育課程検討委員会」・「年次会」・「教科会」等において研究や検討を深め、よりよい教育課程の編成、運用を行う。	②⑥⑧ ⑬	B	A	【課題】 各係のチーフを中心にスムーズに業務を遂行することができたが、それぞれの業務で改善すべき点が多くある。 【取組の方向性】 各係のチーフを中心に常に見直しを図り、教務部全体で情報共有、協議しながら改善していく。
	生徒情報の管理と適正な運用を行う。	教育支援システム「教助」を有効活用することにより、生徒情報を適切かつ効率的に管理する。 生徒の欠課時数や成績不振科目等の把握に努め、各教科・年次・担任と連携し、個々の生徒の指導や学習活動の充実に寄与する。	⑤⑥⑩	A		
	広報活動の充実を図る。	ホームページ・学校案内(スクールガイド)等を充実させるとともに、SNSも活用して本校の情報を発信していく。 学校公開・学校説明会等の更なる充実を図り、より多くの入学志願者の獲得を目指す。	⑨⑩	A		
	学校全体として業務の精選・簡素化を行い、職員が生徒に向き合う時間を多く確保できる環境を作る。	ICT機器を活用した業務の効率化を図り、授業づくりや個別指導に充てる時間を作る。 授業研究や研修の機会を提供し、職員がタブレットや電子黒板を当たり前を活用するための研修の機会を可能な限り多く設定する。	⑩⑪⑬	A		
	生徒の学習活動を積極的に支援し、学力向上に努める。	特別時間割・考査時間割等の早期の編成と適正な運用を行い、よりよい学習指導計画の立案、実行に寄与する。 大学入試制度の変化に適切に対応し、進路指導部と連携してよりよい進路実現ができる態勢をつくる。	①②③ ⑧④	A		
	教務部の活動を活性化し教育活動の円滑化を図る。	ICTを活用し、教務部内の各担当部署の効率的な運営と部署間の連携を密にする。 定期的に話し合いや情報共有の場を設け、各係の業務がスムーズに進行するよう務める。	⑥⑩	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	身だしなみとマナーに係る段階的指導を継続的に実施し、頭髪・服装の適正化を図ることやマナーの向上を目指す。	④	B	A	【課題】 ・学校に寄せられる苦情では駅ビルでの過ごし方や電車の乗車マナーなどについてご指摘を頂きました。全校集会などで生徒全体に指導を行うとともに各担任や部活動の顧問からの指導を行いました。引き続き指導を徹底できるようにしていきたい。
		登下校指導で挨拶の重要性を理解させ、日々の遅刻指導と月間遅刻指導で遅刻者の減少を図る。	④	B		
	自己指導力の育成	学校行事や部活動等を通して、その場面でどのような行動が適切か、自分で考え実行する能力を身につけさせる。	④⑤⑦⑨	A		
	事故や問題行動の予防、いじめ根絶	学校活動や講演会を通して教員が積極的に働きかけ、リスク予測やリスク回避能力を身につけさせ、事故や問題行動の未然防止に努める。 また、学校生活アンケートを実施し、生徒の不安や悩み、学校に対する要望を聞く機会を設ける。	④⑤⑥⑦	A		
	保護者・地域・関係諸機関との連携	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑤⑥	A		
		地域住民や関係諸機関と連携して校外における生徒のマナー指導を行う。	⑥	A		
地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との情報連携を図る。		⑥	B			
進路指導	希望進路の実現	3年間の段階的な進路指導体制を強化し、年次・教科等と連携を密に図って生徒一人一人が目標とする進路実現を積極的に支援する。	②③	A	A	【課題】 1年次から一般受験を意識させ目指させる算段ができるとよいのではないか。 増加傾向にある年内入試に対しての学校としての指導方法。 【取組の方向性】 年内入試に対して、指定校推薦だけでなく総合型選抜等も組織的に指導する体系を整えていく。
		生徒・教員・保護者のニーズを把握し、進路に関する資料や情報等を迅速に的確に提供する。	②	A		
		企業やハローワーク等の外部機関と連携しながら、就職希望者に適切な情報を提供し、就職内定率100%を目指す。	②	A		
	進学指導体制の強化	一般選抜および学校推薦型選抜(指定校制・公募制)・総合型選抜等の選抜方法を研究し、総合学科の特色や生徒の適性・個性を活かした体系的な指導を充実させ、志望する大学等に合格できるよう支援する。	①③	A		
		年次の段階に相応しい課外や模試等のあり方を議論し、効果的に実践することで生徒の学力向上を図る。	③	B		
		朝学習や週末課題を通し自主的な学習習慣を促し、毎日の学習記録で自ら日常生活を見直すことで家庭学習の定着を図る。	①③	B		
	キャリア教育の充実	「産業社会と人間」や「総合的探求の時間」の授業を核として横断的・総合的な学習を行うことで、キャリア教育の充実を図る。	①⑧	A		
ボランティア活動・インターンシップ等に積極的に参加することにより、適切な職業観や勤労観を育む。		④⑨	B			

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度(学期)への 主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と、豊かな心の育成	ロングホームルームや学校行事などの場面を通して、集団生活の充実と向上を促す。振り返りと記録にキャリアパスポートを活用する。	⑦	B	B	【課題】 ・行事が前期に集中するため、前年度からの早めの計画・準備が必要である。 ・コミュニケーション(生徒・部内教員・他の教員)をとる手段 ・生徒会が校則を見直すこと。 【取組の方向性】 ・行事等は意義、目的を示し、生徒・教員とコミュニケーションを取りながら進める。 ・学校のあり方の変化、シチズンシップ教育について、教員の理解を図る。
		「道徳」・総合的な探究の時間等を中心に、学校生活のあらゆる場面で豊かな心の教育が行えるように努める。	①⑤	B		
	生徒会活動の充実	生徒会を中心とした生徒による自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	④⑧⑨	B		
		各年次やホームルーム・地域との連携を図り、よりよい学校生活が過ごせるよう工夫する。	⑧	B		
		新入生を対象とした部活動紹介や活動報告の広報を通じ、学校生活を送る上で重要な役割を果たす部活動の活性化を図る。	⑨	A		
保健	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効に活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	④⑥	A	A	【課題】 清掃が行き届かない箇所が見受けられた。丁寧な清掃が求められる。 【取組の方向性】 夏休み前に大掃除を行い、学校説明会に備えたい。
		各種感染症・伝染病の予防について検温や消毒等自己管理できるようにし、生徒の体調の把握に努める。	④⑥	A		
	安全教育の実施	緊急時の避難訓練を含む防火訓練を実施し、防災意識の涵養を図る。	⑤⑥	A		
	教育環境の整備	生徒の衛生的な教育環境を確保するとともに、清掃活動が円滑に行われるよう努める。	⑤⑥	B		
	思春期の心の育成と豊かな感性を養う。	保健室を利用する生徒の状況観察に努め、生徒がカウンセリングを気軽に受けられるように、教育相談部と連携を図る。	⑤⑥	A		
		より豊かな成長の確立を目指し、自らの心と体に主体的に向き合えるよう講演会で情報を提供する。	④⑥	A		
渉外	ICT活用活動の助成 保護者と教職員が協力して、生徒の健全育成を図り会員相互の研修や親睦を深める。	会員保護者との連絡手段としてまちcomiメールの利用や会議の出欠集計にGoogleフォーム利用などICT技術を積極的に取り入れ、ペーパーレス化による業務の効率化を図る。また、教職員間においても、クラスルーム等を連絡ツールとして活用し、共通理解をもって、効率的な運営取り組む。	⑧ ⑩	A	A	【課題】 ・雁耕祭の会計は、事務室長と教員、保護者が関わるため複雑になる。雁耕祭での会計処理について、事務との連携を改善する必要がある。 ・PTAへの案内をGoogleFormで行っているが、回収率が悪い。 【取組の方向性】 ・雁耕祭の会計について、事務室長と検討する。 ・PTAの連絡には、ネットでの案内だけでなく、紙媒体も利用していく必要がある。
	ICTを活用し、渉外部職員の共通理解を図るとともに、業務の効率的かつ合理的な運営を目指し、タイムパフォーマンスを向上させる。	会員にとって有益な事業の企画・立案・実施に協力して調整を図る。(全体PTA事業・年次PTA事業の開催)	⑧ ⑩	A		
	PTA総会やPTA運営委員会における、教職員や保護者の、休日の業務負担を軽減させる	PTA会員の希望制2年目における問題点の検討を図る。役員選出の方法について、検討する。	⑧	B		
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り協力する。	PTA総会及び県南地区高P連発表の成功。	⑧	A		
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り協力する。	同窓生の人的財産を有効活用し、在校生徒へ還元する事業と会員同士が情報交換に充実感の向上に協力する。	⑧	A		
		組織づくりの充実を進め、課題や問題解決のためその原因と方法を積極的に議論を進める。	⑧	A		
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活発化させる。	新刊や話題書、新聞、雑誌類を機を逃さず提供し、社会の流れに即した図書館の構築を目指す。	⑦⑧	A	A	【課題】 「総合探究の時間」や、進路選択に対応するための資料の選定には年次の助力が必要。 意欲的に活動に携わる図書委員を増やしたい。 【取組の方向性】 年度当初の各教科での図書購入希望調査に、年次も追加する。 2年次生以上は、継続性を持って活動に取り組む図書委員生徒の選出を希望したい。 今年度は教室への入室に不安を感じる生徒の利用はなかったが、次年次も必要に応じて年次等との連携を図りたい。
		大学入試や就職試験、各種検定等、生徒の進路実現につながる図書や資料を充実させ、情報収集力を育成すると共に知識の向上を促す。	①③	B		
	本校の学習活動・教育活動を支援する。	図書館及び所蔵資料を利用した授業が実施しやすいよう支援し、且つ、生徒の自学自習の場としての環境を充実させる。	①⑧	B		
		必要に応じて教育相談部・保健部・年次との連携を図り、生徒の居場所としての役割を果たす。	⑥	B		
		電子黒板やWi-Fi環境を活かし、「産業社会と人間」「総合探究の時間」等での利用も提案する。	⑬	A		
	図書委員会活動の強化を図る。	委員としての役割と責任を認識させ、主体的に活動できるよう指導する。また、学校行事や研修会などへの積極的参加を促す。	⑧⑨	A		
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分					

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への 主な課題
教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と 早期対応を行う。	担任や年次と常に情報を共有しながら、必要があれば支援体制を整え、外部機関との連携をはかる。	⑤⑥	A	A 【課題】 情報共有の在り方が課題である。 特に該当年次外の教員や関係者との 情報共有が十分とは言えない ケースがあり、生徒、保護者、教 員への支援をより効果的に行うた めの体制づくりが求められる。 【取組の方向性】 必要に応じた 情報共有を重視し、学年を超えた 連携を図るとともに、各年次に教 育相談部員の配置を希望し、より きめ細やかな支援が行える体制の 整備を進めていきたい。また、ま た、ウェルビーイングに関する理 解を深めるため、通信や研修等 を通じて教職員への情報発信を行 い、生徒の心身の健康を支える学 校体制の充実を目指す。
		生徒が前向きに学校生活を送れるような環境づくりに努め、必要とされる様々な情報を提供する。	⑤	B	
		生徒又は教員対象の校内研修会を実施する。	⑤	A	
	スクールカウンセラーおよびスクール ソーシャルワーカーの効果的な活用と、 保護者・教員との連携を支援する。	スクールカウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。	⑤⑥	A	
		スクールカウンセラーとの円滑な情報共有を図り、スクールカウンセリングの有効活用を促す。	⑤⑥	A	
		スクールソーシャルワーカーとの円滑な情報共有を図り、問題を抱える生徒の環境調整を図る。	⑤⑥	A	
情報部	校内情報システムの円滑な運用	ネットワークサーバーや校務用ノートパソコン、教育用タブレット、電子黒板の管理を徹底し、校内のハードウェア環境を整える。	⑩⑪	A	A 【課題】 ・同じデータが複数存在しており サーバーの容量過大や煩雑化が起 きている。 ・教育用ネットワークが1GBから 10GBに増設されることが決まっ た。(県通知)スムーズなケーブ ル交換ができるように準備が必要 である。 ・長年使用していないコンピュ ータが校内に散在している。 【取組みの方向性】 ・情報部データを校内サーバから 共有ドライブに一元管理したい。 ・ケーブル交換費用の見積もりを 事前に行い、予算要求に組込む (事務依頼済み) ・調査・把握を行い、適度な廃棄 処理の実施。
		校内のネットワーク環境を問題なく運用し、職員業務が滞りなく行えるように整備する。	⑩⑪	B	
	教育情報ネットワークの利用と連携	GoogleWorkspAceの利用について情報を提供し、授業、HRの充実のため教職員と連携を図る。	⑩⑪	B	
		校務支援システム(教助)の設定、管理を行い、授業評価が円滑に進むようにする。	⑩⑮	A	
	外部への情報発信	ホームページを充実させ、広報としての役割を担うとともに、生徒の学校生活の相互理解をサポートする。	⑨⑩	A	
		マチコミメールの登録、運用について情報提供し、滞りなく活用できるよう管理する。	⑩	A	
1年次	基本的生活習慣の確立	高校生として、かつ成人、社会人への準備期間という中で、自分のあるべき姿をきちんと考え、認識し、望ましい生活習慣を身につける。	④⑥⑦	A	A 【課題】 ・学習習慣(特に家庭学習)の定 着化。 ・自分自身を大切に、他者を思 いやる態度の育成。 【取組の方向性】 ・外部テストや模試等のデータ分 析と活用。 ・HR活動や行事等を通じた人間 関係の構築支援と規範意識の醸 成。 ・積極的な情報発信。
	基礎基本の習得と学習習慣の定着	日々の授業を大切に、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	A	
		生徒の実態に応じた授業や課外の在り方を考え、主体的、対話的な学びを実践する。	①③⑤⑥	B	
	適切な進路方向性の決定	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②	A	
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②④⑤	B	
	教科外活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	A	
HR、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。		⑧⑨	A		
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分				

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への 主な課題
2年次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につける。	④	A	A 【課題】 ・進路指導において年次全体での取り組み方を計画的に行うこと。 ・基礎学力の定着が必要な生徒と応用的な力を求めている生徒の指導の仕方の違いをはっきりさせていく。 ・多様な進路実現に対応できるように支援していく。 【取組の方向性】 ・年次内の各教科担当の先生方に、より積極的に学習指導に関与していただく。 ・年次全体で生徒を支援する体制づくりの構築。 ・進路行事の積極的導入。
		自己管理能力を育み、自立する力を育てる。	⑤	A	
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業を大切に、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②③	B	
		授業改善プロジェクトに沿い、生徒の実態に応じた授業や課外の在り方を考え、主体的、対話的な学びを实践する。	①②③④	B	
	個に応じた進路選択	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②③	B	
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②③	A	
	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑦⑧⑨	A	
		HR、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。	⑦⑧⑨	B	
3年次	希望する進路の実現に向けた指導の徹底	希望する進路を実現するために必要なものを整理させ、計画的に学習をすることができるよう指導に力を入れる。	①③	A	A 【課題】 ・進路実現へのぶれない揺るがない意志の育成 ・合格後の生活、学習意欲 ・他者の立場をおもいやること ・成人としての意識付け 【取組の方向性】 ・細やかで丁寧な面談 ・合格を最終ゴールとしない教科指導 ・社会の一員としての在り方を念頭に置いた教科、HR指導
		生徒と密にコミュニケーションを図り、希望する進路を実現することができるよう様々な角度から生徒をサポートする。	②③	A	
	社会人としての能力向上や意識の醸成	成人する自覚を持ち、自分勝手な行動を慎み、他人の気持ちを考えて行動できるよう指導に力を入れる。	④⑤	A	
		経済や社会情勢に目を向けるよう指導し、自分も社会の一員であることに自覚を持たせる。	⑦⑧	B	
	健康的、計画的な行動の徹底、学習効率の良い環境づくりの促進	スマホの使用などに時間を割き過ぎず、時間を意識した行動をさせる。	④	B	
		いじめ・不適応等生徒の実態に気を配り、関係各部所と連携をとりチームで対応にあたる。	⑤⑥	B	
	職員同士や保護者との連携	ICT機器等を効果的に活用して情報を共有し、生徒対応に差が出ないよう職員同士の連携を密にする。	⑩⑥	A	
		保護者との連携を密にし、本校の指導に対して理解と協力をさせていただきよう努める。	⑥	A	

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分